

プログラム部活動の評価と反省

プログラム部 清水秀彦

はじめに

第16回合同野営大会（スカウトの祭典 Hyocam. 2008）は猛暑の中、4泊5日のプログラム活動を無事終了しました。これもひとえに淡路地区はじめ各地区の皆様方の深いご理解とご協力によるものと深く感謝申し上げます。

今般の合同野営では、班・隊を生活・活動単位とし、開会式に始まり各地区提供の“優秀班をめざす活動（通称…「101活動」）”を中心にプログラム展開がなされました。101活動については森地県連盟副コミッショナーの“101活動を振り返って”に詳細な紹介がありますのでそちらをお読み頂きたいと思います。2度の地区プログラム担当者会議並びにホームページを中心とした情報交換により、すばらしい各地区のプログラムを堂々にご準備、展開頂きました。

ここでは、プログラム部としての活動の評価と反省を、ポイントを絞って以下に記載します。

1 101手帳・・・信仰奨励に役立ちましたか？

101活動を含んだ班活動をプログラム面で支援し記録するのが101手帳でした。構成内容として前半は、今大会のプログラムの目玉である、101活動の紹介、班活動予定への組み入れ、大会の概要紹介、取得得点の記載、他の班員の得点の貢献認識と意識高揚などを手帳で追うことができます。また後半は、信仰奨励に対する活動展開が容易なようにスカウトハウスの紹介、生活目標の例、またスカウトハウスにおける各自の役割も記載出来、隊長の評価と合わせて今後に生かせる構成となっております。教育規定にて加盟員の明確な信仰を持つことを奨励している本運動のねらいに少しでもこの101手帳を生かしてもらえれば幸いです。

2 宗教儀礼・・・信仰奨励の機会となりましたか？

8月10日の午前中、5教宗派に分かれて実施しました。教宗派によっては外部から教導者をお招きし開催しましたが、原隊活動の信仰奨励に少しでもお役に立てて頂ければ幸いです。

3 カブ・ビーバーディ・・・炎天下の活動にも係らず、元気な活動ができました。

8月10日の午前から受付、場内見学を兼ねた観察ハイク、そしてセレモニーと展開しました。炎天下、楽しいプログラムでしたが、残念ながらセレモニーを待たず帰られた隊も見受けられました。ボーイ部門の活動を身近に体験できる、有意義な活動であり多くの参加者においでいただきましたが、開催時刻の工夫が今後は必要であることを感じました。

4 大営火・・・久しぶりの大営火を楽しめましたか？

近年、原隊における歌とかゲームとかを組み入れた営火が少なくなっている状況下、兵キヤンでも久しぶりに大営火を実施しました。千人を超える参加者が共に歌い踊り、併せて各SCからの出し物も特徴的で楽しく過ごせたと思います。プログラム上の配慮としては、参加スカウトがスカウトソング、ゲームとか、営火自体をあまり知らない現状ですので極力一般的な内容としました。

これをひとつの参考に、原隊における野外生活の充実とスカウトソング・ゲームなどの振興と営火の実施を隊長さんをお願いします。

5 子ども会からの参加者受入・・・ボーイスカウトの大会を楽しんでもらえた。

淡路ブロック子ども会連絡協議会との共催でもあり、9名の子どもたちを受け入れることができました。見知らぬ仲間と不慣れな環境下ではありましたが、新しい友達とキャンプを楽しんでもらえたと思っております。

6 セレモニー・スカウトズタウン・・・GHQ本部員の参加奨励

参加隊、あるいはSCでは、スカウトが毎朝、正装で朝礼・スカウトズ・タウンを実施しています。また、我々本部員も朝礼・スカウトズタウンを毎朝開催しておりました。服装はともかく可能な限りご参加いただき一日のけじめを持っていただきたかったと思います。

7 場外プログラム・・・900名以上の参加者を得ました。

風光明媚な淡路島で開催するのですから、良い思い出と将来に役立つ経験を持ってもらいたいという思いから北淡震災記念公園とアート山美術館を訪れてもらいました。大会会場とは少し違ったものを持って帰ってもらえたと思います。同時に淡路地区の皆様方には活動全般にわたり万全の支援体制をおとりいただき大変感謝しております。

8 実現出来なかった影のプログラム・・・前回の兵キャンと比べて

大会の前後には恐怖を伴う雷雲が毎日のように発生し、全国に災害をもたらしました。大会前にあって、参加者は雨対策を点検されたことでしょうか。この時期、通常なら一日ぐらい雨の洗礼を受け様々なことを学ぶものです。前回の兵キャンでは台風の日に入るといった稀有な経験ができましたが、そこまでいかずともスカウト活動で雨に会うことは、我々に考える機会を与え、更なる創意工夫をうながします。いわば“そなえよつねに”の精神を高揚させるものです。幸か不幸か今般は、太陽の恵みに感謝する機会を得ることができませんでした。

9 茶店ローバー・ベンチャー開店・・・交流の場として大好評

初めての試みとして、VLAC活動、ベンチャーフォーラム、21WSJ、富士チャレンジキャンプ、10NA等、多彩な行事に参加したスカウトたちの同窓会として、あるいは情報交換の場として21時より1時間、茶店を開店しました。結果としては予想以上の参加者があり所期の目的は達成できたと思えます。

10 プログラム部員（プログラム奉仕者）

・西播：小寺、安井　・姫路：川崎（朋）　・東播：前田　・神戸北：岸川　・芦屋：和田　・西宮：田中、池田、森地　・川西：柴、森田（勉）、池田　・尼崎：橋本、大橋、渡邊、池辺、黒田、清水　・カブ・ビーバーディ：堅田、宮武、諸岡、野上　・1SCより派遣：佐島、山田

プログラム部における課題・改善（案）リスト

※課題として共通していることは、雨天時のプログラムです。

#	活動	課題	対応
1	事前準備	・各会議への欠席者、聞いてないと言われる方への対応他	・コミッショナーを中心とした連絡手段を厚くしコミュニケーションを促進する。
2	開会式	来賓対応（事務局とプログラム部との連携）	・プログラム内容、席順の紹介とご挨拶を頂く方への依頼の円滑化他
3	宗教儀礼	平素の活動に浸透した信仰奨励	・平素の原隊活動充実のためにも、県連組織に宗教特別委員会の新設を検討
4	カブ・ビーバーディ	時間帯への考察	・11時からのセレモニーの開催
5	大営火	出し物（各隊）の受入	・参加あるいは原隊からの出し物をもっと受け入れること
6	閉会式	開催時刻の明確化（基本実施要領では夜間）	・表彰式、閉会式を実施要綱で夜間と記載したが、可能な限り時刻明記する。
7	兵キャンが合 同野営かイ ベントか？	2000年はイベント的であり、2004年は隊活動重視的であった	・スカウトらしい班活動、隊活動がしにくい現状を踏まえ、兵キャンのあり方を考える必要がある。
8	ベンチャース カウトの参加	ベンチャースカウトの関わり方	・独自プログラムの必要性検討

以上